

第1回 山形県地域協調型洋上風力発電研究・検討会議

日時：平成30年7月18日（水）14:30～16:30

場所：ガーデンパレスみずほ

（山形県酒田市みずほ 2-17-8）

○内容

- (1) 開 会
- (2) 主催者挨拶
- (3) 研究・検討会議の設置について
- (4) これまでの県の取組みについて
- (5) 講 演

「洋上風力発電総論」

東京大学大学院 工学系研究科社会基盤学専攻 教授 石原 孟 氏

- (6) 今後の進め方について
- (7) 意見交換
- (8) その他
- (9) 閉会

【配付資料】

- 【資料1】 山形県地域協調型洋上風力発電研究・検討会議設置要綱
- 【資料2-1】 庄内沖における洋上風力発電の可能性に関する基礎調査
- 【資料2-2】 山形県洋上風力発電に係る経済波及効果等調査業務
- 【資料3】 講演資料
- 【資料4】 「遊佐沿岸域検討部会」の設置について（案）
- 【資料5】 調査研究の予定
- 【参考資料】 洋上風力発電に係る政府の方針

1. 開会

2. 主催者挨拶

太田部長（山形県環境エネルギー部）より挨拶。

3. 研究・検討会議の設置について

- (1) 事務局より、資料1に基づき、研究・検討会議の設置について説明し、了承された。
- (2) 事務局より、座長に吉村委員を提案し、了承された。また、座長の職務代理者に山家委員が就任することで了承された。

4. これまでの県の取組みについて

事務局より資料2-1及び資料2-2に基づき説明した。

5. 講演

東京大学石原教授より「洋上風力発電総論」について講演があった。

6. 今後の進め方について

事務局より資料4に基づき説明した。

7. 意見交換

三浦委員（山形県環境審議会委員）

パリ協定以降、積極的な地球温暖化の防止に向けた取組みが求められるなかで、洋上風力のような再生可能エネルギーの導入の取組みは貴重である。今後、風車を増やしていくためには、沿岸部、海洋に出ないと用地の確保が難しいと思う。また、日本で風車の普及が遅れているのは、環境への影響の懸念が大きく、住民の理解が足りない部分がある。FITにおける利益は限定的で、恩恵は一部の人に限られている点もある。導入の進んでいるヨーロッパは住民などが風車導入事業に参加していることが多いのではないかと。そのため、この会議で環境への影響をしっかりと把握し、地域に対しての経済効果、雇用効果を示していただきたい。質問だが、事務局から説明のあった経済波及効果について、売電利益が含まれているのか。また、そもそもこの事業は誰が主体となって進めていく想定であるのか。

事務局 経済波及効果に売電利益は含まれていない。また、事業については、仮に進めることで研究・検討会議で合意が得られた場合、海洋再エネ促進法の流れで進めていくことになると思われる。その場合であっても、県内への波及効果を高めるような政策など、一定程度、県内の事業者を育てていくような取組みをしていきたい。

弦巻委員（山形県商工会議所連合会）

1点目は、本日示された波及効果等をみると、洋上風力は産業界として大変魅力的であると捉えている。なお、固定資産税の取扱いはどうなるか。

2点目は、住民の目線から、景観上でどのような影響があるかを把握するため、

できれば鹿島港のような洋上風力導入地を見る必要があると考える。

3点目は、再生可能エネルギーの導入も重要だが、省エネも含めた教育も重要だと考える。酒田市は小水力発電をはじめとしたエネルギーミックスを進めており、それらを利用して教育も推進していただきたい。

事務局 固定資産税は増収が見込まれるが、それに伴い地方交付税が減額されることから、固定資産税増収額の概ね 25%程度が自治体における収入増分となる。5MWの風車の場合、1基あたりの収入増分としては50万円*程度と見込まれる。

(* 修正：会議後に確認した結果、金額は「200万円程度」となる見込み。)

梶脇委員（(国研)水産研究・教育機構)

遊佐町と酒田市は共同で使っている漁場がある。遊佐部会においては、そのような漁業実態を十分に踏まえたメンバー構成を考えていただきたい。洋上風力発電を実施していくためには、漁業の性格を理解する必要がある。また、風車が長期にわたり海域を占有することを、漁業との関係でどのように考えていくかが重要である。風車の稼動に伴う騒音、振動による魚への影響について部会で議論していただきたい。

本間委員（山形県漁業協同組合）

漁業振興の視点はありがたいが、組合のみなさんから理解していただくことが一番重要であると思う。組合員が積極的に考えていくのであれば、漁業組合としても推進に努めていきたい。

中原委員（(一社)海洋産業研究会）

発電事業者は、漁業権の正しい理解が必要である。また、風車の導入には実際にどのようなレイアウトで、どのぐらいの時間をかけるかについての検討が次の段階で必要である。地域住民、漁業、発電事業者にとってもメリットがあるようなお手伝いを我々として行いたい。本日の資料の中で、経済波及効果を推計するために仮で設定された風車配置のレイアウト図面があるが、あくまで仮のものだと思われるので、これが一人歩きしないよう留意してもらいたい。

吉村座長（東北公益文科大学）

本日の協議会の意見を受け、8月の遊佐部会での具体的な議論につなげていく。今後とも、各関係者がウィン・ウィンとなり、県全体が良い方向に向かう取組みにしていきたい。これをもって本日の議事を終了する。

8. その他

9. 閉会

〔了〕